

ゆりいか通信

第20号

令和7年12月



子どもが通常どおり学校に通っている場合には特に気にならないような質問や話題であります。不登校の状況では思いがけずつらさを感じることがあります。不登校初期の段階では、子どもも保護者もまだ状況を前向きに捉えきれず、日頃抱えている自己否定的な気持ちを刺激してしまうこともあります。また、不登校の期間が長くなり、考え方整理されてきたご家庭であっても、親せきや知人との価値観の違いが際立ち、なかなか理解してもらえないことへの戸惑いがあります。立ちはだかることがあります。

12月のカレンダーを目にすると、クリスマスや年末年始の予定が自然と思い浮かぶ方が多いでしょう。日頃なかなか会わない親せきや知人と顔を合わせる貴重な機会が増えます。その場が楽しみというご家庭もあれば、少し気が重く感じられるご家庭もあります。とりわけ不登校のお子さんやそのご家族にとつては、この時期ならではの独特的の緊張が生まれやすいように思い

ちに耳を傾け、ご家族自身にことつても無理のない形を選ぶ登校について理解してもらうまでには、時間もエネルギーも必要になることが少なくあります。『失礼に当たらぬいように』と気を遣う場面もあると想いますが、まず優先してほしいのは、お子さんとご家族が安心して年末年始を迎えることです。どうかご家庭ごとのペースで、心穏やかに年を越せる過ごし方を選んでいたければと思います。

冬の過ごし方は「家庭によつて本当にさまざまです。不登校であることをおーインにしたほうが気が楽だと感じる場合もあれば、逆に話したことで負担が増す場合もあります。久しぶりに会う人とやり取りが、子どもの変化のきづかけになることもあります。気持ちが追い込まれてしまふこともあるでしょう。どの選択が正解なのかは、実のところ誰にも分かりません。

心穏やかな年末年始を迎える

Our Activities

先日ユースシンポジウムに参加し、分科会④のナビゲーターを務めました。体験では、若者たちが日頃全体会では、感じている「しんどさ」や「もやもや」を率直に語り、「本当にそなな」気づきが多くありました。分科会④では、私たちが活動拠点を置く「こりす西陣」のほか、「とらい・あんぐる」「よここKitchen」「ミユニティースペースsacca」「西CHOTTO」の皆さんから活動紹介があり、利用する若者活躍の声も交えながら、それぞれを活きたつながりの大切さを感じ、人との機会となりました。



ユースシンポジウム 参加報告

フラツペ

【保護者・支援者向け】

1月のフラツペでは、「保護者・支援者が知つておきたい若者に多い消費者トラブル」をテーマに勉強会を開催しました。日頃様々なニュースなどで若者を取り巻く消費者トラブルを耳にします。SNS広告をきっかけとした定期購入トラブルや、オンラインゲームの高額課金、もうけ話や闇バイトなど、身近で起ります。ややすい事例がたくさんあります。

1月のフラツペでは、少人数勉強会は、いつもざっくばらんに交流することができます。町家のくつろげる和室での少人数勉強会は、いつもざっくばらんに交流することができます。中島先生をお迎えして、「学習障害」について学びを深めたいと思います。SNS広告をきっかけとした定期購入トラブルや、オンラインゲームの高額課金、もうけ話や闇バイトなど、身近で起ります。ややすい事例がたくさんあります。

**参加費
1000円**

ゆりいか勉強会
こんな子いませんか
学習の苦手な子どもたち

講演会 12月27日（土）14:00~15:30
洛和会 音羽病院 公認心理師・臨床心理士
中島陽大先生

授業や支援の場で、「読み書きだけが極端に苦手」「計算に困ると集中につまずく」とか、「努力や意欲とは結びつかない原因を抱える子どもたち」とか、「若者と出会うことがあります。そこには、学習障害という特徴がある場合があります。今回ゆりいか勉強会では、学習障害に関する基本的な知識と、学校現場や支援の現場で活かせる取り組みの視点について、専門の先生にお話しいただきます。教職員・スクールスタッフ・若者支援に携わる方のご参加をお待ちしています。

交流会 15:30~16:30
[希望者] ざっくばらんにおしゃべり

場所 こりす西陣
(京都市上京区藤木町795-5)

ウェブサイトからお申込みください。

教職員やこども・若者支援者の方向けの勉強会として「ゆりいか勉強会」を行っています。今回はゆりいか研究会のアドバイザーをで洛和会音羽病院の中島先生をお迎えして、「学習障害」について学びを深めたいと思います。町家のくつろげる和室での少人数勉強会は、いつもざっくばらんに交流することができます。中島先生をお迎えして、「学習障害」について学びを深めたいと思います。SNS広告をきっかけとした定期購入トラブルや、オンラインゲームの高額課金、もうけ話や闇バイトなど、身近で起ります。ややすい事例がたくさんあります。

また教職員を始めさまざまなお団体さんがそれぞれの枠を超えて一緒に学ぶことで、新たな視点での交流もでき、いつもより有意義な時間となっています。頃気になっていたことを尋ねたり思ひを共有しやすいため、多くの方はぜひお申し込みください。

Upcoming Events

12/21

◆ フラッペ勉強会・交流会

12月は、「自分を大切にする」です。どのようにすればよいか一緒に考えましょう。

12/27

★ フラッペ勉強会・交流会

「学習障害」についてお話を聞いていただきます。一緒に学びを深めませんか。

1/10

❤ わいわいギャザリング

カリンバをさわってみたり、ボードゲームをしたりして過ごしましょう。

1/18

◆ フラッペ勉強会・交流会

1月は、「選挙」がテーマです。どのように伝えればよいのか考えてみましょう。



ゆりいか研究会

★ 教職員・若者支援者対象

◆ 保護者・若者支援者対象

❤ 高校生年代の若者対象

いずれも詳細はゆりいか研究会ウェブサイトをご覧ください。

今月のコラム

今月は洛和会音羽病院の中島先生から「寄稿いただきました。

HSPは発達障害でしょうか？

「HSPに当たるまるので発達障害で」と言われる人を見かけます。例えば、音の過敏さや周りの人の評価を気にするといった困りが、HSPでもあり発達障害でもあると聞えるのでしょうか。

HSPとHyper Sensitive Parson の略です。1990年代にH・ライン・ニ・アーロンが提唱した概念です。Hyper Sensitiveのあるように、HSPの人はそうでない人に比べて、音などの外部刺激に対する敏感さだけでなく、心理的な変化に対しても敏感です。HSPには4つの気質があると考えられています。頭文字を取つて「DOES (ダズ)」と言われます。以下に列挙します。(1) D.. Depth of processing (情報処理に深むがおれ)、(2) O.. Overstimulation (刺激に対する敏感度あれ)、(3) E.. Empathy and emotional responsiveness (全体的に感情の反応が強く、特に共感力

が高し)、(4) S.. Sensitivity to subtleties (些細なことに気が付き、影響されやすい)。上の特徴により、周りからの評価に過敏である、様々なことを考えすぎて不安になる、などの特徴が見られます。自己肯定が下がることもあるため、生きづらさを感じることもあるようです。

ただし、HSPは病気ではなく、その人の気質を表す概念です。HSPと発達障害が混同されることがあります。発達障害は診断名である点で根本的に異なります。例えば、感覚過敏は音や匂いなどの刺激に敏感あるいは音や匂いなどの刺激に敏感であることは鈍感である症状です。注意欠如・多動症に見られる注意の散漫さは周囲の刺激に注意が移る症状です。これらの症状は発達障害の一部であり、治療の対象になります。

といえます。なぜなら、HSPは確かに生活上の困りに繋がる側面もありますが、感受性の高さや思慮深さといった特徴は、その人の長所でもあるからです。したがって、HSPだから発達障害と捉えて治療の対象とするのではなく、自分の特徴として理解し、より良い生き方を考えていいくのがよいのではないかと思われます。

音羽病院 臨床心理士
中島 陽大

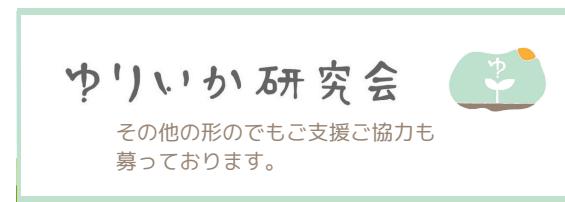
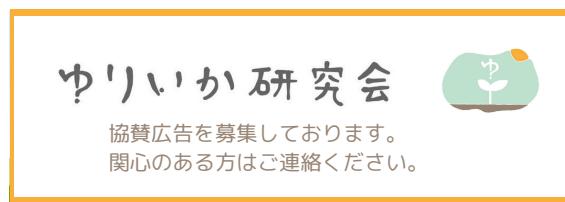
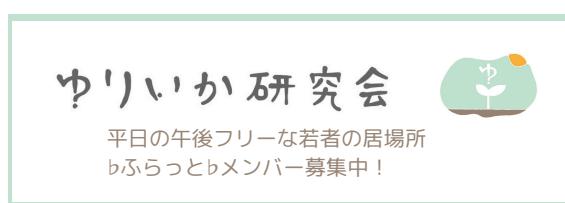
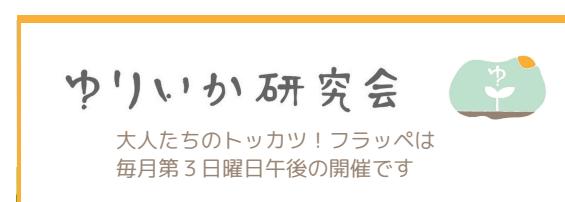
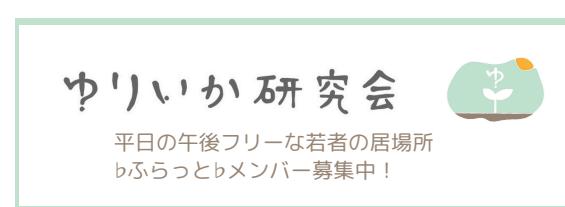


が治療として捉えるより、その特徴の理解を深めて自分らしく生きるすべを探る対象として捉える必要がある

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（順不同）



多喜誠子さま、杉本さま、宮坂修平さま、T.OGAWAさま

クラウドファンディングおよびその他の形で協賛・寄付をしていただいたみなさまに心より感謝申し上げます。campfire community におきまして引き続きクラウドファンディングを受け付けております。また協賛広告や直接の寄付も受け付けております。関心をお持ちの方がいらっしゃいましたらぜひお声がけください。



《連続小説》



金鶏鳥

宮美遊

幼少期（十七）

五月は、田植えの季節だ。田植様が一列になつて、青々とした苗を三、四本ずつ土の中に差し込んでいく。

当時、たくさんの田んぼを持つ家は、賃金を払つて田植えを手伝つてもらつていた。その手伝いに来るのは、田植様と呼んだ。田植様達は、着物を腰のあたりで深くおはしょりをして着物の丈を短くし、その下から着物の下に着けていた。うつむく仕事なのである赤いおこしと呼ばれる裾よけを着物の前が汚れない様に、かすり掛けをして、頭には菅笠をかぶついていた。腰には小さな籠をぶらさげていて、その中には苗束が三つ入っている。弥之助があぜ道から、腰籠の苗がなくなつた田植様に苗束を投げて渡していた。信男は、父っていた。

この小説は、明治・大正・昭和と激動の時代を乗り切った実在の人物をモデルとした小説です。先行き不透明な現代を生きるヒントが得られるような気がします。ぜひこれからも楽しんでご一読ください。

一步一歩下がりながら植えられた苗は、整然ときれいな列になつていて。大きくなつたら自分でなんだろうか、と感心しながら信男は見ていました。

「信男」

「急いで家に行つて、苗場から苗を十束取つてくれ」

「うん、わかった」

信男は急いで立ち上がると、お尻の土をぱんぱんと叩き落して家に向かつた。

信男は家の前まで走つてくると家に向かいの田んぼに入つた。そこにはこれが苗場になつていた。そこには本十五センチ程に育つた稻の苗が百本一束に括られて、根の部分を水に浸(つ)けて並べられていた。その苗十束を一束ずつぐいっと掴み、苗籠に入れられた。

今年のカレンダーも、気がつけば残り半月ほどとなりました。この一年を振り返っています。立ち止まつたり迷つたりしながらも、さまざまなものに挑戦してきました。目に見える数字としての成果はまだ十分とは言えませんが、活動を通して出会えた方々や、少しずつ広がつていて、少くとも、その積み重ねを大切にしながら、これからも歩みを続けていきたいと思います。

(恩庄か)

おしらせ

★2月の朝マルシェに向け、企画のアイデアを出してくれる高校生と、活動をサポートしてくれる大学生を募集しています。周囲にご関心のあるそうなお子さん・学生さんがおられましたら、ぜひご案内いただけると幸いです。

★令和7年11月号までのゆりいか通信をウェブサイトに掲載しました。関心おありの方

絵：落葉画廊

編集後記